

修学旅行でコロナ感染、難しい安全確保 旅先まで保護者迎えに／帰路で発熱者、学年閉鎖 旭川の中学校

2022/6/5 北海道新聞



修学旅行先で、横に並んで食事をする旭川市内の中学校の生徒。この学校は旅行中に感染者は出なかった（提供写真）

旭川市内の中学校で修学旅行シーズンを迎え、旅先で新型コロナウイルス感染が拡大し、対応に追われるケースが起きている。各校とも感染対策を講じたものの旅先で生徒が発熱し、保護者が迎えに行く学校もあった。ただ、感染による重症化のリスクは以前に比べて低下傾向で、旅行の延期が相次いだ昨年と異なり、既に市内の26校中24校の修学旅行を終えており、今年は全学校で予定通り実施される見通しだ。

「対策を十分に行っても感染者が出てしまう。生徒たちは気持ちとしては帰りたくなかっただろう」。5月中旬の函館などへの修学旅行で感染者が出た旭川市のある中学校の教頭は、当時をこう振り返った。

一行はバスで生徒同士が隣り合わないよう1クラス2台に分乗したり、食事時も向かい合わず横に並んで座ったりと、感染防止のガイドラインに沿って対応した。しかし、3日目の昼に複数の生徒が発熱。各保護者にその日の夜遅くに後志管内の宿泊施設まで車で迎えに来てもらった。全体の旅程も最終日の4日目の朝で切り上げ、最後の予定だった遊園地での自由行動はキャンセルを余儀なくされた。

同校は昨年、5月の緊急事態宣言などの影響で修学旅行を3度延期し、ようやく10月末から2泊3日で実現した。今年は従来通り5月に修学旅行を終えられ、教頭は「多くの生徒は『最終日まで来られたからよかった』と前向きに受け止めたようで、救われる思いだ」と安堵（あんど）の声を漏らした。

旭川市教委によると、市内では既に24校が予定通り修学旅行を終え、残り2校も今月中に実施する見通し。昨年は小規模校を除く24校で修学旅行が行われ、うち8校はコロ

ナ下の影響で7～11月に延期していた。市教委学校保健課によると、修学旅行中に感染が広がったと考えられるケースは今年が初めて。同課はオミクロン株の感染力の強さが背景にあるとみる。

市内の別の中学校では、修学旅行で5月中旬に函館方面を訪れ、感染対策を徹底していたが、帰路で生徒が発熱。累計の感染者は20人を超え、学年閉鎖となり、体育祭を6月から7月へ延期した。

同校の校長は「修学旅行の行程を一通りできたことは救いだが、できる限りの対策をしてもこうなり、正直つらい」と肩を落とす。文部科学省が体育の授業など屋外でのマスク着用を「不要」とする方針を示したが、「マスクを外すことに不安や抵抗を感じる生徒もいるだろう」とマスク着用については従来通りの対応を続ける考えで、今後もコロナ対策の模索が続く。(鳥潟かれん)